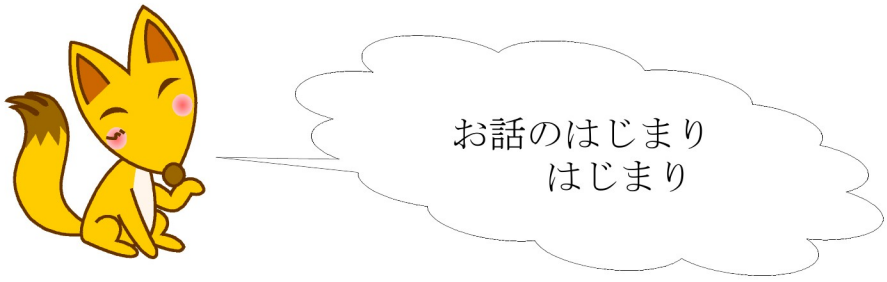
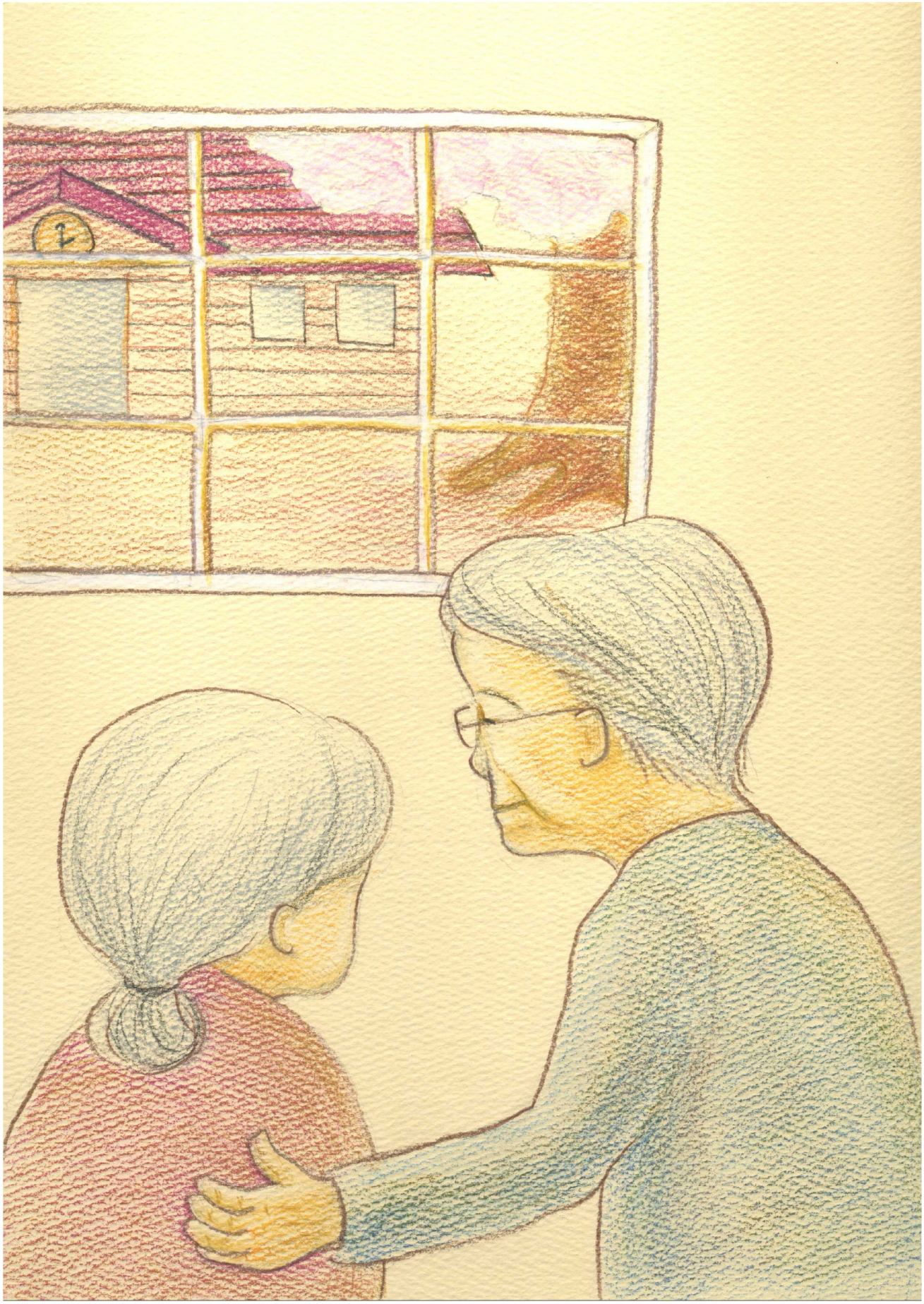
# なかねしょうの
# かみさま


お話のはじまり
はじまり

むかし　むかし



　もりのなかに　まだ　開校(かいこう)していない　小(ちい)さな　がっこうが　ありました。そのわきに　小(ちい)さな　いえが　ありました。そこには、おじいさんと　おばあさんが　すんでいました。ふたりには　子(こ)どもがいませんでした。
「赤(あか)ちゃんがいたら，ええの・・・。」
「ほんにのー。」
ふたりは、いつもそんなはなしをしていました。

ある日のことです。それは　ちょうど　がっこうが　かいこうした日でした。赤ちゃんの　大きなこえが　こうていから　きこえてきたのです。ふしぎにおもった　ふたりは　いそいで　こうていに　いってみました。すると　りっぱな　さくらの木のもとに　それは　それは　かわいい赤ちゃんが　ないていたのです。

「赤ちゃんが　おるぞ！」

「なんて　かわいい　あかちゃんだろう。」

「きっと　かみさまが　わしらの　ねがいを　きいて　さずけてくださったに　ちがいない。」

「きっと　そうですわ。」

ふたりは　すっかり大よろこび。赤ちゃんのなまえを　がっこうでみつけたので　「なかね」と　なずけました。なかねは　おじいさんと　おばあさんに　たいせつにそだてられ　　すくすくと　そだちました。

　あるはるの日のことです。きれいなはなの　こみちを　なかねが　あるいていると
「たすけてー。」
という　こえが　きこえました。よくみると　アリが　水たまりのなかで　おぼれています。
「たいへんだ。」
いそいで　なかねは　アリを　たすけあげました。いのちを　たすけられた　アリは　よろこんで
「いつか、きっと　やくにたちますから」
といって　「かかわりあい」という　たからものを　なかねに　あげて　さっていきました。

　あるなつの日のことです。なかねが　あせをふきふき　もりを　あるいていると
「たすけて！」
というこえが　しました。よくみると　ハトがみちばたに　たおれていました。
「たいへんだ。」
なかねは　ハトを　いそいで　いえに　もちかえり　やさしく　かんびょうしました。

　やがて　ハトは　みるみる　げんきになり　そらを　とぶことが　できるように　なりました。いのちを　たすけられた　ハトは　よろこんで
「いつか　きっと　やくにたちますから。」
といって「みとめあい」というたからものを　なかねに　あげると　さっていきました。

あるあきの日のことです。コスモスの　みちを　あるいていると
「たすけて！」
というこえが　しました。よくみると　キリギリスが　たおれて　いました。おなかが　すいていたのです。
「たいへんだ。」
いそいで　なかねは　キリギリスに　たべものを　あげました。キリギリスは　たべものを　たべると　どんどんどんどん　げんきに　なりました。いのちを　たすけられた　キリギリスは　よろこんで
「いつか　きっと　やくにたちますから」
といって「ささえあい」という　たからものを　なかねに　あげてさって　いきました。

　あるゆきのふかい日のことです。
「たすけて！」
　という　こえが　しました。よくみると　つるが　たおれていました。おなかが　すいて　たおれていたのです。
「たいへんだ。」
いそいで　なかねは　つるに　たべものを　あげました。つるは　どんどんどんどん　げんきに　なりました。いのちを　たすけられた　つるは　よろこんで
「いつか、きっと　やくにたちますから。」
といって「まなびあい」という　たからものを　なかねに　あげて　さっていきました。

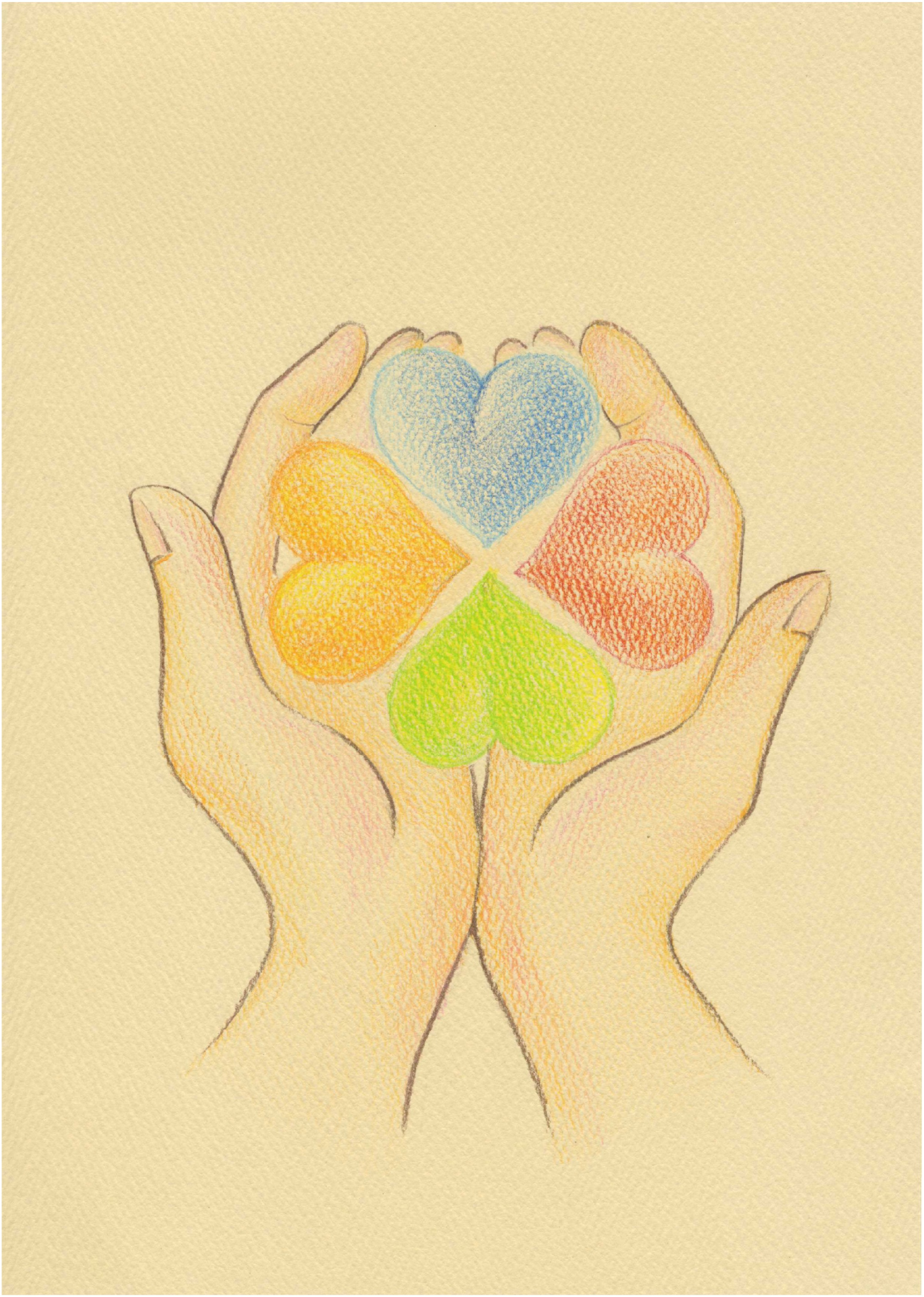
すうねんがすぎた　ある日の　ことです。おじいさんと　おばあさんが　おもい　びょうきに　なってしまったのです。

なかねは　すっかり　こまって　しまいました。もりのなかには　おいしゃさんが　いなかったのです。なかねは　いっしょけんめい　かんびょう　しました。

しかし　おじいさんと　おばあさんの　びょうきは　いっこうに　よくなりません。むしろ　ねつがたかくなり　いっそうわるくなって　いくのでした。なかねは　しんぱいで　よるも　ねることができませんでした。

　そのうわさを　きいた　アリや　ハト・キリギリス・つるは
「こんなときこそ　おんがえし。」
と　くものうえの　かみさまの　ところに　いって
「どうか　なかねを　たすけてください。」
と　おねがいするのでした。

　つぎの日のことです。なかねの　みみもとで　かすかな　こえが　きこえました。くもの　うえにいた　かみさまが　そっと　おりてきていったのです。
「おまえが　よいことを　したときに　もらった　たからものを　つかいなさい。」



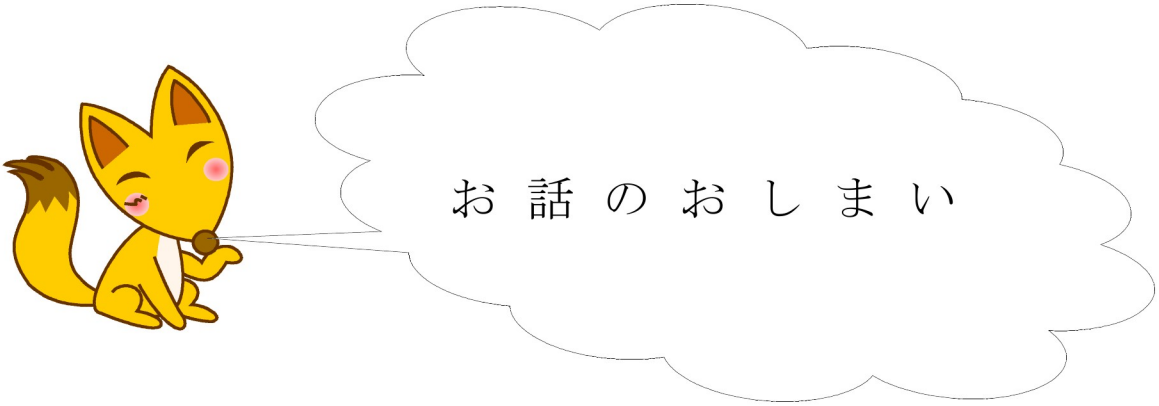
なかねは　さっそく　かみさまから　いわれたとおり　４つの　たからものを　つかうことに　しました。まず　「かかわりあい」の　たからものを　つかって　よいいしゃを　さがすことが　できました。「みとめあい」「ささえあい」「まなびあい」の　たからものを　つかって　なかねは　おじいさんと　おあばさんの　かんびょうを　みんなで　ねっしんに　つづけました。すると　どうでしょう。おじいさんと　おばあさんは　すっかり　びょうきが　よくなったのです。ふたりは　なかねや　みんなの　あたたかい　こころを　しって　えがおいっぱい　しあわせいっぱいになり　ますます　げんきに　なったのでした。

大(おお)きく　せいちょうした　なかねは　このときの　おんがえしにと　４つの　たからものを　つかって　がっこうや　ちいきの人(ひと)のために　はたらき　おおくの人(ひと)を　えがおいっぱい　しあわせいっぱいに　するのでした。

やがて　なかねは　てんにのぼり　「なかねしょうのかみさま」となったのです。いまでも　みなさんのことを　きっと　みまもって　いることでしょう。

これからも

ずーっと　ずーっと・・・


お 話 の お し ま い

牛久市立中根小学校

監修　校長　長谷川安男

文　飯田　昭夫

絵　桑名　真理